

ちりばばさま

大波女公おはばばさま

二代將軍秀忠の乳母

上 司 小 太四郎

(一) 長丸の美良育人二ね

二代將軍秀忠の行列が、駿府から下つて来  
 て、三島の宿に泊つた。供えろひを、そのこ  
 ろは、至極簡單であつたが、それをも、百人  
 に近い同勢は、またまたさう聞けぬかへぬ東  
 海道に立ち溢れ、宿屋といふ宿屋には、脱  
 ぎ棄つた草鞋がいつほいつ、人の聲、馬の嘶  
 き、ほんねりに、盆を正月とが一時に未だヤ

な騒ぎ

つてあつた。

本陣の上段に、臥床を敷いた秀忠は、枕

聲を息んとて、夕聲が瀧を聞もなく、枕

に就いたが、どういふものか、容易に眠れな

かつた。月こころ寐つきのよい質であつたが、

一軍にニ三度ほは、かづいナことか、あいて

もふあつた。そのときには、よくおはばさま

が、召さされてお伽にあがつた。おはばさま

いなのには、秀忠の乳母である。天正七年四月

秀忠が、遠州濱松の城内に生れたとき、母の